

2014 12/6
養護教員部第2回学習会



こちらが鯖江市健康課の山本進さんです。年に200回くらい学校や施設に出向いて講習会や学習会を開いているそうです。「人の動きをまねしているときに、ミラーニューロンがどんだんのびているんです。」「子どもの顔を上げさせると、胃を広げ、胸を上げることになって、気持ちを高揚させます。」「笑うと免疫細胞が2倍に増えますよ。」「相手を笑わせると免疫細胞が10倍になります。」「子どもには成功するまで練習させてはいけません。失敗しているときこそ成長しているんですよ。」など、タオルを使った運動をおし、そのときの実感をおして、元気のコツを教えてくださいました。



昨年度の養護教員部の反省をもとに、今年度から総会後の学習会に加えて第2回学習会を開くことが決り、開催されました。雪が降り続くあいにくの天候となってしまいましたが、47名の養護教員が集まり、予定されていた内容を学習することができました。

学習会は、日教組養護教員部副部長の植野幸子先生（奈良県教組）と鯖江市健康課の山本進氏を招いて、学校保健をとりまく情勢や課題について、そして「元気の出るおまじない」と題して、スポーツ心理学を土台にした元気の出るコツを教わりました。

こちらが、日教組養護教員部副部長の植野幸子さんです。健康診断、アレルギー疾患、予防接種、フッ素洗口、健康日本21にかかわる動向についてお話をいただきました。

「劇薬であるフッ素を使ったうがいでは、むし歯を予防できる。安全なうがい用になっているとして、全国的に広まっています。養護教員部としては、フッ素は劇薬であり、実際にアレルギー症状をおこしたり、気分が悪くなったりする子も出ており、学校で一斉にすべきことではないという考えでとりにくんでいます。口腔内の粘膜に直にフッ素が触れるのに安全なわけがありません」「子どもたちの健康を守るために、がんばっていきましょう」



充実した学習会でした。